

加賀家文書のアイヌ語を読む

と き 平成25年7月27日(土) 午後1時30分～3時30分

と ころ 別海町郷土資料館

講 師 佐藤 知己氏(北海道大学大学院文学研究科教授)

参加者数 28名

そ の 他 北海道立アイヌ民族文化研究センター共催

講座の内容

「加賀家文書」は質量両面において学術的に貴重性の高いものであり、アイヌ語研究の観点からその意義や文献的、言語学的に見た二つの面をお話いただきました。

アイヌ語資料としての重要な理由として、①明治以前の古いアイヌ語の記録である。②根室・別海などは、現代のアイヌ語は殆んど無く、大量のアイヌ語が記録されている。③「通辞」(通訳)という専門職の立場での記録であり、旅行者などのものと比べると信頼度が高い。

反面、言語学的な欠点としては、①日本語をアイヌ語に翻訳したものであり、自然なアイヌ語ではない可能性がある。②カタカナでアイヌ語を標記しているので、正確な形を知ることが難しい面もあるそうです。アイヌ語の構造を知る研究には、現代音声・映像、言語の専門学者の記録はたくさんあるが、どのようにしてこのようなアイヌ語になったかということ、古文書の記録から読み取り、方言の比較研究を進めていかなければならない。それには、歴史学の方の協力当然必要になってくるということです。

その他に、加賀家文書資料に見られる独特な特徴やアイヌ語方言の比較などのお話をされ、今後益々「加賀家文書」に含まれるアイヌ語の研究の重要性についてお話いただきました。

遠くは札幌市や網走・釧路・根室管内からの参加者もあり、当館所蔵の貴重な資料の意義について学んだ1日となりました。

